

# 新人看護師対象フィジカルアセスメント研修における 多段階オンライン練習問題の開発と実践

高橋暁子\*, 吉里孝子\*\*, 本 尚美\*\*, 鈴木克明\*\*\*

## Development and Practice of Online Exercises with Multiple Difficulty Levels in Physical Assessment Training for Novice Nurse

Akiko TAKAHASHI\*, Takako YOSHIKATO\*\*, Naomi MOTO\*\*, Katsuaki SUZUKI\*\*\*

### 1. はじめに

これまで、A 大学病院における新人看護師を対象としたフィジカルアセスメント教育は、入職3カ月後の6月下旬に対面研修を実施し、現場でOJT (On the Job Training) が展開され、翌年2月頃にフォローアップの対面研修を実施していた。対面研修では、基礎知識や技術の講義や、シミュレータを用いたアセスメント演習を行い、最終的には10分間の制限つきで文章事例（ペーパーペイシエント）を適切にアセスメントできるようになることが目標であった。しかし受講者のレベルにばらつきがあり、とくに対面研修以外で自学自習をしない受講者は、研修の目標レベルへの到達に時間がかかるという課題があった。そこで対面研修や勤務以外の時間に取り組む自学自習用教材が求められていた。その一方、看護におけるフィジカルアセスメント教育では、呼吸音の聴診などの実技の修得支援を目的とした動画や音声によるeラーニング実践はあるものの<sup>(1)(2)</sup>、アセスメントという一種の問題解決スキルの向上に着目したeラーニング実践はあまりない。そこで本研究では、構造化可能な事例を扱う問題解決型学習において、受講者レベルを踏まえた自己学習の支援を行うことを目的に、症例の構造に基づいた多段階難易度のeラーニング教材を開発した。

本研究は同一大学の部局をまたいだ共同研究であり、実践ニーズを抱える大学病院の研修を教授システム学の専門家が支援してPDCAを回すための長期的な持続性を指向した試みでもある。本稿では初年度の実践を通じて、開発した教材の利用状況と、多様なレベルの受講者の役に立っているかという視点で有用性を検証し、次年度に向けた改善の方向性を探った。

### 2. 実践

#### 2.1 eラーニング教材の設計

受講者レベルに応じた教材の設計にあたり、研修講師（ベテラン看護師）が、最終的に統合されたアセスメントに至る前提としてどのような個別のアセスメントを行い、個別のアセスメントのために症例のどの情報に着目しているかを明らかにする構造化分析を試みた。具体的には、1回目の対面研修の事前・事後テストの症例と、自己学習教材用の2症例の、全3症例を題材にして、階層分析<sup>(3)</sup>を行った（図1）。

階層分析の結果、最終的なゴールである「アセスメントの統合」のためには、全症例において、前提として「意識」「呼吸」「循環」の個別アセスメントができる必要があることがわかった。さらに三つの個別アセスメントの下位にさらなる個別アセスメントが必要で

\* 徳島大学総合教育センター (Center of University Education, Tokushima University)

\*\* 熊本大学医学部附属病院 (Kumamoto University Hospital)

\*\*\* 熊本大学大学院教授システム学専攻 (Instructional Systems, Graduate School of Kumamoto University)

受付日：2014年5月9日；再受付日：2014年8月12日；採録日：2014年9月24日